

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和5年度 第9回佐渡市公共施設あり方検討会議
開催日時	令和6年3月20日(祝・水) 15:00~17:00
場所	佐渡市役所本庁 2階 大会議室
会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>1) 検討会議全体のまとめ</p> <p>2) 複合事例の共有、意見交換</p> <p>3) その他</p> <p>3 閉会</p>
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、 その理由)	公開
出席者	<p>《公共施設あり方検討委員》(12名)</p> <p>《市役所》(4名)</p> <p>・事務局 財務部長 平山 栄祐</p> <p>財産管理課長 齊藤 昌彦</p> <p>財産管理課課長補佐 若林 昭宏</p> <p>財産管理課公共施設適正化推進係主任 中川 英幸</p>
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	0人
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
事務局	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>1) 検討会議全体のまとめ （資料 01-1、01-2、01-3 により説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 8 回会議の南佐渡エリアでの議論時に出た意見・考え方をもとに、事務局側で全島に展開したものが資料 01-2 である。 ・地域バランスを確認し、修正等の意見・調整をお願いしたい。 <p>～グループワーク～</p> <p>【A 班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 金井エリア <ul style="list-style-type: none"> ・金井コミュニティセンターを中心に機能が密集しており、中興資源活性化センター機能は近隣施設で補えると考えた。 ● 畑野エリア <ul style="list-style-type: none"> ・畑野は黒が多くバランス的に懸念したが、結果的には黒のままで良いと考えた。理由として、黒判定の施設の近くに小・中学校や改修した畑野行政サービスセンターも密集しており、機能の複合化が可能ではないかと考えたため。 ・金井と距離が近く、一体的に考えてもよいのではないかと考えた。 ● 真野エリア <ul style="list-style-type: none"> ・佐和田は距離が近く、一体的に考えてもよいのではないかと考えた。 ・ふるさと会館は古く、ホール機能は佐和田でも補えるのではないかと考え、寿命が来れば廃止の方向で考えた。 ・小・中学校も隣接しており、学校利用の検討をしてみてもよいのではないかと考えた。 ● 佐和田エリア <ul style="list-style-type: none"> ・大佐渡交流活性化センター温室ハウスは、支出も少ないので廃止せず、新しい農業の試みを試験的に行う拠点として活用できないかと考えた。 ・今後、高温化等による農作物被害の問題が起きた際には、新しい試みが必要となるし、JA や県普及センター等とも連携し、シンボリックな施設にもなるのではないかと考えた。 <p>【B 班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 畑野エリア <ul style="list-style-type: none"> ・畑野の黒の割合が高いが、畑野農村環境改善センターは将来重荷になると感じ、機能を集約するとなると畑野行政サービスセンターと学校施設で考えた。 ・他の地域よりも一極集約ができることで、活発な活動や便利性の向上が図れる良い集約化・複合化ができるのではないかと考えた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・一箇所集中型の方が、施設維持に迷いが出ず、行政としても対応・投資もしやすく、集まりやすく利便性が上がるのではとの賛成意見もあった。 ● 民間譲渡、機能移転 ・学校体育館、屋内体育施設を除く延床面積削減率が43.6%であるが、譲渡方針の施設が大分貢献しているものと思う。民間移譲が望ましいが、ハードルが高く実現できるのかは問題であり、廃止及び民間譲渡、指定管理、業務委託等色々な手法があるが、条件をどのように進めるかがこれからの課題ではないか。 ・トキ交流会館は民間移譲となっているが、学校再編の話も聞くので統合後の廃校を利用し、機能移転の可能性はあるのではないか、 ・学校施設の活用事例について、確かに素晴らしい考え・集約方法であるが、リノベーションの必要性やセキュリティ面を考えると、実用に年数がかかることが考えられる。やるのであれば早めに方針を決めて実行する必要がある。
ファシリテーター	他の地域での同様な議論の中で、うまく民間譲渡できている例はありますか。
アドバイザー	<p>学校は基本的に余り便利な場所がないケースが多く、東京であっても中々活用が難しいケースが多い。いきなり民間譲渡でなく、事前にサウンディングで活用の可能性を探る手法が多い。場合によってサウンディングに市民も加わり、民間と市民のアイディアと行政の思惑・制約を事前に話し合いながら条件調整をしていく手法が良いのではないか。</p> <p>【C班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光施設系 <ul style="list-style-type: none"> ・譲渡にあたって、指定管理などを経由しソフトランディングするやり方があれば、観光系施設は結構譲渡ができるのではないかと感じる。 (あいぽーと、きらりうむ佐渡、佐渡奉行所) ● 学校体育館、屋内体育施設 <ul style="list-style-type: none"> ・施設をまとめると、大人と子供での利用の違いなど運用面での問題が懸念される。施設の統合と同時に利用者にとってもプラスになるようなシナリオを議論していく必要もある。 ● 博物館 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学習面の機会のため残していく必要はあるが、多数点在しなくてもよい。島内人口は減少しているので、島外観光者向けの利用促進に合わせた施設の集約・廃止により、運営の仕方もセットで考えていく必要がある。
座長	市民向けに社会教育を提供する目的ではないところに可能性があったりするのではないか。
A委員	佐渡国小木民俗博物館のように、今後廃校を博物館に転用できるとよい。

座長	<p>統合していくには、財産分類別の所管課の施設のあり方でなく、部署を超えた運用の議論もセットになることが重要ではないか。</p>
事務局	<p>2) 複合事例の共有、意見交換</p> <p>○複合事例の共有（資料 02-1 により説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 8 回時の議論で、学校は周辺地域にもある程度残っていくもので、学校施設を上手く活用し機能集約をすることで地域の拠点となり得るとの意見があった。 ・一方で不特定の人が利用することでのセキュリティ面での課題も挙げられた。 ・事務局で全国の特徴的な事例を紹介するので、佐渡に取り入れられるか意見交換をお願いしたい。 <p>～意見交換～</p> <p>【A 班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特別教室の活用 ● Win-Win 福祉×教育 <ul style="list-style-type: none"> ・特別教室（調理室等）を開放することは是非やっているとよい。 ・空間の提供だけでなく福祉施設と学校施設が一緒であれば、高齢者の福祉や子供たちの次世代教育にも繋がり Win-Win の関係性を持てる。実際に他地域でもあるので可能ではないか。 ● 地域学の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・地域学の推進につながる学校の拠点活用は何かないものか。 ● ベンチャー×学校 <ul style="list-style-type: none"> ・佐渡市で企業誘致をしており、ベンチャー企業の拠点として、学校の 1 階をインキュベーションセンター、2 階以上を学校にできないか。 ・企業の特徴を生かしたプログラミング教育を提供しながら、学校 1 階を安価でオフィス利用する。 ● スポーツ特色化 <ul style="list-style-type: none"> ・佐渡市でも自転車等プロスポーツチームを作る動きがあるので、体育館別に種目別のスポーツ機能を充実化させ特色化を図ることで、学校の体育館活用も進むのではないか。 <p>【B 班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保育園を併設 <ul style="list-style-type: none"> ・周辺部は学校への保育園併設がよいのではないか。 ● 連絡所を併設（松ヶ崎、高千） <ul style="list-style-type: none"> ・連絡所等の行政機能も学校と複合することで、より地域へ身近な施設となるのではないか。

	<p>【C班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 周辺地域の学校 <ul style="list-style-type: none"> ・周辺部の学校（内海府小中併設校、高千小学校・中学校、前浜小中併設校）は将来的に残していく方向であるかと思う。残すに際して望ましい形を考えた。目黒区の事例のように、行政機関出張所との複合化がよいのではないか。 ● セキュリティ <ul style="list-style-type: none"> ・駐在所も複合化してしまう。 ・物理的でない立ち入り禁止などの中途半端な分離の方が、かえって危険。利用者を増やし、より多くの人間が立ち入る方が、人の目も多くなり安全ではないか。（分離型ではなく、混合型の方が安全） <p>3) その他</p> <p>○全体のまとめ （資料 01-1 により説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設あり方検討会議で出された意見を参考に、来年度公共施設適正配置の基本方針として市でまとめていく。 ・学校への複合化、行政庁舎への複合化、会館・大型施設への複合化を進め拠点施設を適切に整備し、地域での機能維持を図る。 ・利用圏域区別に施設をレベル単位で分類し、市全域、エリアでの適正な施設数を検討。 ・拠点施設を中心とした集約・複合化による機能維持を基本として、各施設分類の状況、地域バランスを考慮して、市で総合的に判断していく。
事務局	
B 委員	<p>施設の統廃合を進めるには、利用団体の統合や連携が図れると進みやすい。芸能祭など地区の公民館が主催し地元の施設で行っているが、現状、出演者も各地区減少しているので、他地区の公民館同士を連携させることで地元以外の施設でも実施しやすくなると思う。</p> <p>施設統廃合より先行して、団体等の連携・強化を図ると統廃合の説明もしやすくなるのではないか。</p>
座長	<p>このような整理は、他部署や地域がまとまって話をしていくきっかけになる。</p>
ファシリテーター	<p>利用圏域における施設区分の考え方（ピラミッド）は納得できる。</p> <p>例えば、アミューズメントやあいぽーとは、広域拠点・市域拠点施設として、必ずしも各施設に必要な施設ではない。</p> <p>学校は生活圏域拠点施設の位置付けだが、人口減少により統廃合が進むと地域圏域拠点施設ではなく生活圏域拠点としての議論になってしまう。</p>
座長	<p>集約・複合化により機能をまとめることで、生活圏域拠点施設として維持できるような考えとなるのではないか。</p>

	<p>その方が住民にも説明しやすく納得感もある。</p> <p>○「公共施設のあり方を考える際の指針」について意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議論をしていくにあたっては指標の設定が重要。 ・この検討会議を通じて、これから行政が検討する際に大切にしてもらいたい視点、地域コミュニティの形成と併せて地域別に協議を進めるにあたり必要な視点を皆でまとめて残したい。
C委員	<p>暗い話でのスタートであったが、縮小でなく新しい価値を生み出す方向で考えることで明るい雰囲気での議論が行えた。</p> <p>住んでいる人間が佐渡は良いところと言えるように、魅力的になる方向で進むとよい。</p>
A委員	<p>● 無償貸借をやめて有料化</p> <p>利益、経営のためでなく市施策であるので、利用促進のためにも公共施設は極力無償かすべきではないか。</p>
B委員	<p>市民全員が一律に使うのであれば無料でも良いが、利用しない方もいるし経費も掛かるので、利用者は費用を負担すべきと考える。</p>
ファシリテーター	<p>有料化には経営的観点が必要なのか。</p>
A委員	<p>経営的観点を強く持ち込んだら民営化になる。</p> <p>赤字でも本を読める教養のために図書館がある。</p> <p>場によって経営的観点は必要だが、バランスは政治判断ではないか。</p>
事務局	<p>どちらも行政が行うことなので必要な視点と思う。</p>
B委員	<p>受益者負担が原則であって、高齢者利用が減免などはそれでよいと思う。</p>
ファシリテーター	<p>過去の議論では、有料化で存続できるのであれば存続させた方がよい道もあるのではないかと意図であったので、経営の観点からも改善できることはないか考える視点は大切だということではないか。</p>
アドバイザー	<p>● 総括</p> <p>公共施設の問題を話す際によく言われることは、施設と機能を分けて考えること。施設が大事ではなく、施設を通じてどのようなサービス・機能を提供し、行政や市民が今後どのようにしたいのかの議論をしなくてはならない。</p> <p>資料 01-1 にある利用圏域における施設区分の考え方（ピラミッド）について、昔は「施設＝機能」であったので、この捉え方で良かったが、現在のように施設</p>

は減らさなければならないが機能・サービスは充実させたい場合は、この形に固定されてはいけない。むしろ機能で整理した方が良い。

生活圏で維持すべき事業サービスが何か、どの施設で実現するかを考えた時に、場合によっては学校へ広域的な機能を入れるかもしれない。

施設でなく機能に軸を置くことが、より多様な機能を実現させていくことを考える上では重要である。

もう一つは、施設分類別に行政寄りか民間寄りか、施設に関わる主な主体について色分けがされているか、これは施設の運営のあり方を考える上で重要な視点である。その施設の運営において、官や民、地域等の様々な主体がどのようなかわり方をすることが最適なのか、の観点を持つ必要がある。議論の出発点としては、今の表のように行政寄り/民間よりといった整理があってもよいと思うが、その枠をどんどん壊しながら官民の多様な主体を混ぜ合わせることで、よりよい施設運営のあり方を検討する観点が大切になってくる。

行政はどうしても所管が分かれるため、自分達の分野や仕事が決まっているところからのスタートとなり、色々な分野が合わさった議論、地域を超えた議論がすごく苦手なところである。しかし、市民であれば所管の枠など関係なく議論できるという点が一番の市民委員会の重要なポイントであるので、この会議の議論で出たポイントは行政内での議論では中々出ないものである。

通常は市民委員会では市民側から施設を減らしたくない旨の意見が多いが、佐渡の市民委員会では非常に俯瞰的な視点で考え色々な意見が出てきたと思う。

こういった市民側の議論をきっかけとして、行政も枠を超えた横割りの議論を行い、さらに市民とキャッチボールをしながらブラッシュアップすることで今後より良くなるのではないかな。

3 閉会

(平山財務部長より閉会の挨拶)